

## 【参考資料】

### ■アーティストプロフィール



#### 横尾忠則氏

1936年兵庫県生まれ。美術家。72年にニューヨーク近代美術館で個展。その後もパリ、ヴェネツィア、サンパウロ、など各国のビエンナーレに出品し、パリのカルティエ財団現代美術館など各国の美術館で個展を開催。15年高松宮殿下記念世界文化賞、令和2年度東京都名誉都民顕彰。7月17日より東京都現代美術館での大規模な個展が開催される。



#### 横尾美美氏

画家。1994年「Tadanori & MimiYOKOO」展で展覧会デビュー。1995年個展開催から、東京を中心に、全国各地で開催。2000年 PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE MILLENNIUM、Spring Summer2000 を担当。最近では me ISSEY MIYAKE “MIMI YOKOO”の第一弾(2017年)から第三弾(2020年)までコラボレーションを展開。

### ■企画コンセプト

二つの巨大なガラス・ウォールに作品を展開するにあたり、「**相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念を**」を前提にテーマを検討しました。横尾忠則氏、横尾美美氏を交えてミーティングを進めるうち、「火と水」、しかも卑近な状況にとどまらない、宇宙的な元素概念として捉えることのできる、“**火 (ignis)**”と、“**水 (aqua)**”に絞り込まれました。火は水によって消火されるが、水もまた火によって気化するという相関関係にあります。また、火は揺れ続け、螺旋状に上昇する一方で、水は水平にとどまり、垂直に落下するという、運動形態も極めて異種の状態を示します。こうした二つの存在と運動は、宇宙はもちろん、人類、私たち一人一人が内包する運動であり、エネルギーでもあるという思想に立ち、人類から、宇宙までに通底する「**コスモパワー COSMO POWER**」=「**生命の循環運動**」と捉えました。

### ■作品の表現形式について

表現形式においても、「**相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念**」をテーマに取り入れました。単にそれぞれが火や水を描くのではなく、モンタージュ、あるいはコラージュという手法を用い、作品の部分部分が、単純な火や水ではないものによって構成されています。これによって、上下左右様々な場所から、時に移動しながら鑑賞することで、場所や視点、時には時刻や天候によっても異なる発見が得られる作品が完成しました。

### ■展示・制作方法

丸ビル・新丸ビルの壁面に作品を展示するにあたって、お二人が手掛けた巨大な絵柄を両ビルの窓ガラスの大きさにあわせて、1枚あたり約0.7㎡から約3.9㎡のシートに分割しました。分割したシートを2021年5月6日から2ヶ月以上かけて、1枚ずつガラス壁面に貼り付ける形で壁画が制作されました。最終的に、丸ビルが798枚、新丸ビルが1,480枚、合計2,278枚のシートが用いられています。

### 株式会社ドリルについて

クライアントの課題を最も劇的な方法で解決するクリエイティブ&コミュニケーションエージェンシー。最も劇的な方法とは、世の中に新しい価値を生み出す革新的なやり方そのものを意味しています。戦略、アド、プロモーション、コンテンツ、プロダクト、デジタル、イベント、PRとあらゆるソリューションを提供します。

社名：株式会社ドリル (Drill Inc.)

設立：2004年12月 代表取締役 CEO：江成 修

所在地：〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町19-5

HP：<http://www.drill-inc.jp/>

# Drill